

## 萩原朔太郎の書簡（新収蔵資料）を特別公開します【初公開】

萩原朔太郎関連の収蔵資料では、質量ともに全国一を誇る前橋文学館において、新資料を収蔵したため、初公開します。

### 1 概要

今回収蔵された萩原朔太郎の書簡は、「萩原朔太郎全集」（筑摩書房、1989年発行）の編集当時に発見されていなかったもので、全集未収録の資料となります。

### 2 意義

書簡には、朔太郎自身が『目下流行の例の悪風邪に犯され』と書き記している。消印のある大正7（1918）年11月4日は、スペイン風邪の流行時期と重なり、同疾患の病歴が朔太郎にあると推測される新事実の発見と言えます。（安智史<sup>やす さとし</sup> 文学研究者、愛知大学教授、萩原朔太郎研究会幹事より）

### 3 内容

萩原朔太郎書簡 竹村俊郎宛 ペン書 便箋2枚41行封筒付（大7・11・4消印）  
滞京中の竹村と会いたいが、目下流行中の風邪に悩まされ出られない。竹村の詩集出版に力を貸すという趣旨の書簡。（発信地：前橋市北曲輪町）

### 4 公開の日時・場所

- (1) 日時 令和3年6月19日（土）～8月1日（日）まで  
9時～17時（入場は16時30分まで）
- (2) 場所 前橋文学館 2階常設展示室（千代田町三丁目12-10）
- (3) 観覧料 一般500円（2階特別企画展の観覧料を含む。高校生以下、障害者手帳持参の方と介護者1名は無料）

### 5 今後の展開

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、朔太郎が生きた時代の感染症流行を顧みることは、その時代性を映す大変貴重な資料となり、今後の朔太郎研究の基礎資料としても価値のあるものです。

※前橋文学館は「まん延防止等重点措置」の適用を受け、5月16日から6月13日まで休館しております。詳しくは、前橋文学館ホームページをご覧ください。